

# 地域管理経営計画の概要

## 吉井川森林計画区（岡山県）

### 1 森林計画区の概況

国有林野面積は12,636haであり、岡山県北部の中国山地の脊梁地帯、中部の吉井川中流から南部の瀬戸内海島しょ部にかけて大小の団地が散在しています。



計画区内の総土地面積に占める国有林野の面積割合は5%、森林面積に占める割合は7%となっています。

計画区内の国有林は、北部は雨量が多く森林土壌も良好なため、スギ・ヒノキ等の人工林が8割を占め、水源涵養機能の発揮及び木材の安定供給を重視する一方、南部は気象・土壌条件から広葉樹及びアカマツ等の天然林が8割を占め、保健文化・土砂災害防止機能の発揮を重視した管理を行っています。

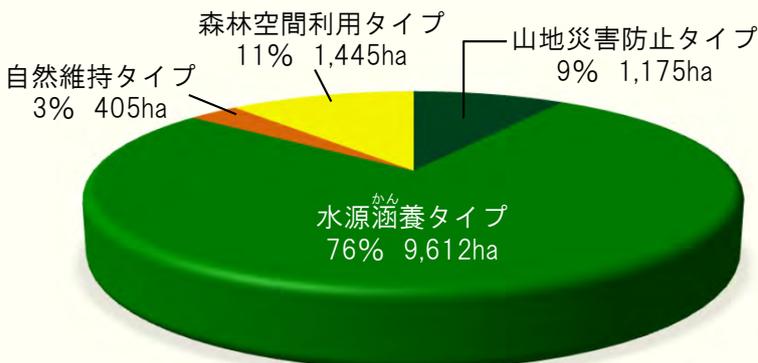
また、計画区北部に所在するアセガセ国有林では、「森林共同施業団地」を設定し、民有林と連携して森林整備や木材生産に取り組んでいます。

#### 森林計画区内における森林面積の割合

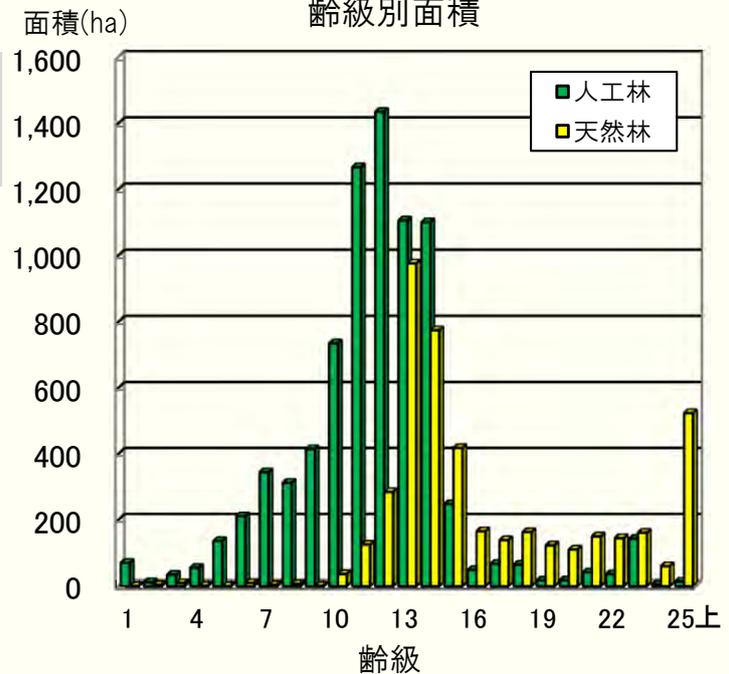


#### 機能類型の割合

国有林野面積12,636ha



#### 齢級別面積



注1 各データは令和4年現在。

注2 四捨五入等により内訳と合計が合わない場合がある。

注3 齢級とは、5年をひとくりにし、林齢1～5年生を1齢級、6～10年生を2齢級、以下、3齢級、4齢級と続く。

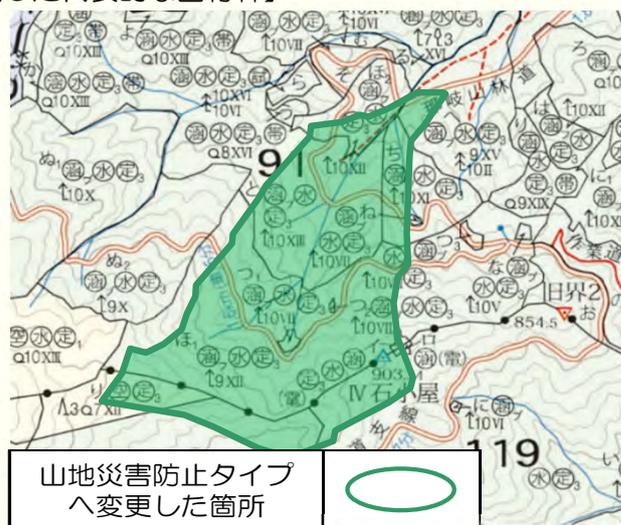
## 2 計画策定にあたってのポイント

### (1) 災害に強い国土基盤の形成に向けての機能類型の変更

気候変動による豪雨の増加等に伴い、山地災害が激甚化・多様化していることを踏まえ、事前防災・減災の考え方に立ち、計画区内の山地災害危険地区(山腹崩壊危険地区10箇所)の機能類型を見直し、うち2箇所(27.17ha)を「山地災害防止タイプ」へ変更しました。

機能類型	新計画 (ha)	現計画 (ha)	現計画比 (ha)	国有林 (市町村)	変更前の機能類型
山地災害防止タイプ	1,175.15	1,147.98	+27.17	那岐山(奈義町) 黒木(津山市)	水源涵養タイプ

【山地災害防止タイプへ変更した代表的な国有林】



那岐山国有林(奈義町)

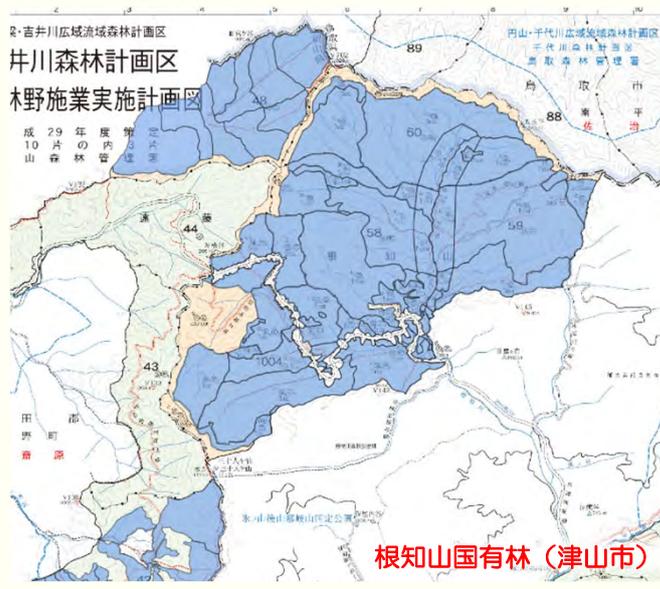
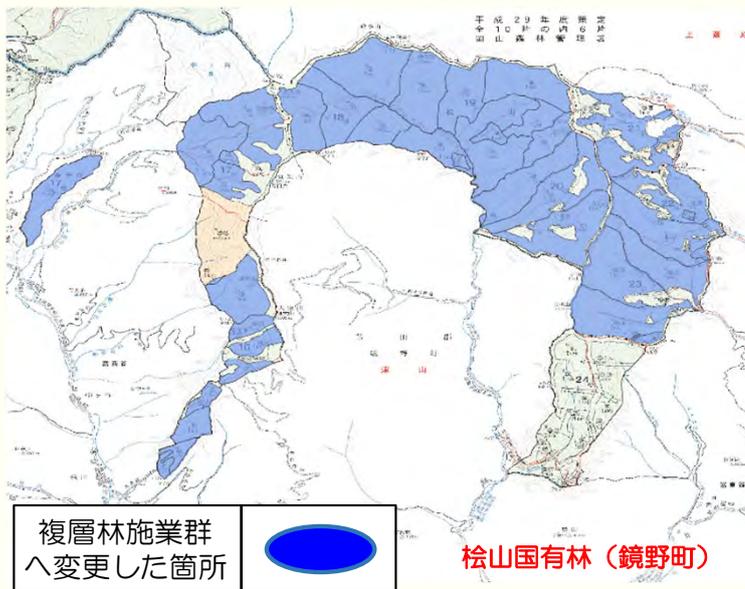
### (2) 森林の有する多面的機能の発揮に向けた施業群の変更

森林・林業基本計画において、急傾斜地や林地生産力の低い森林のうち、公益的機能と木材等生産機能の発揮を同時に期待する森林については、帯状等の伐採と植栽により育成複層林へと誘導することとされています。

このため、水源涵養<sup>かん</sup>タイプの人工林のうち一定の条件に見合うものについては、育成複層林へ誘導する施業を行う「複層林施業群」へ変更しました。

施業群	新計画 (ha)	現計画 (ha)	現計画比 (ha)	変更前の施業群
複層林施業群	3,825.41	1,457.52	+2,367.89	長伐期施業群

【複層林施業群へ変更した代表的な国有林】



楡山国有林(鏡野町)

根知山国有林(津山市)

### 3 国有林野の管理経営に関する基本的な事項

#### (1) 主要事業量（令和5年度～令和9年度：5力年）

森林の有する公益的機能を持続的に発揮させるため、1,586ha（15.9万 $\text{m}^3$ ）の間伐を実施し、間伐材の有効利用に努めます。

また、348ha（8.0万 $\text{m}^3$ ）の主伐を実施します。

事業区分		新計画	現計画	増減事由
伐採総量	主伐	348ha（80,067 $\text{m}^3$ ）	168ha（47,833 $\text{m}^3$ ）	複層林誘導のための伐採指定の増
	間伐	1,586ha（159,201 $\text{m}^3$ ）	2,094ha（183,888 $\text{m}^3$ ）	間伐対象林分の減
更新総量	人工造林	307.18ha	165.82ha	主伐の増加に伴う増
	天然更新	—	—	—
保育総量	下刈	851.41ha	506.77ha	人工造林の増加に伴う増
	除伐	55.67ha	71.88ha	対象箇所減少に伴う減
林道事業	開設	1,000m	1,300m	森林整備箇所に応じた減
	改良	95m	—	修繕箇所の増加に伴う増
治山事業	保全施設	8箇所	6箇所	復旧が必要な荒廃地の増加に伴う増
	保安林の整備	—	76.84ha	整備対象森林の減少に伴う減

注1 主伐とは、利用期に達した樹木を伐採し収穫すること。間伐と異なり伐採した後に更新を行う。

2 間伐とは、育てようとする樹木どうしの競争を軽減するため、混み具合に応じて一部の樹木を伐採すること。

3 更新とは、伐採等により樹木がなくなった箇所において、植林を行うことや自然力の活用等により森林の世代が替わること。

4 除伐とは、育てようとする樹木の生長を妨げる他の樹木を刈り払う作業。通常、育てようとする樹木の枝葉が互いに接する状態になるまでの間に行う。

#### (2) 民有林と連携した施業の推進

民有林と国有林が隣接している区域において「森林共同施業団地」を設定し、民有林所有者と連携して路網の整備、土場の共同利用や民有林材との協調出荷等に取り組みます。

名称	対象地			連携して行う取組み
奈義町馬桑地域 森林共同施業団地	民有林	68ha	岡山県、奈義町森林組合	間伐等の森林整備、 路網の整備、 路網、土場の共同利用
	国有林	37ha	アセガセ国有林（奈義町）	

【森林共同施業団地運営会議の様子】

【民有林と国有林の路網接続部分（民有林側）】



岡山森林管理署（津山市）



奈義町森林組合管理森林（奈義町）

# 4 国有林野の維持及び保存に関する事項

## (1) 保護林

本計画区では、希少個体群保護林を本山国有林に1か所を設定しています。

この保護林は、地域を代表する自然植生であるモミ、ツガ、クリ、アカガシ等の天然林及びその遺伝資源を保護しており、モニタリングや巡視等を行いながら厳格に保護・管理しています。

【本山モミ・ツガ・クリ等遺伝資源希少個体群保護林】



本山国有林 (美咲町)



本山国有林 (美咲町)

名称	面積 (ha)	特徴	国有林名 (市町村)
本山モミ・ツガ・クリ等遺伝資源希少個体群保護林	9.72	モミ・ツガ・クリ等希少樹種の天然分布地の保護及び遺伝資源の保存	本山 (美咲町)

## (2) ニホンジカ等の被害対策

本計画区北部では、ニホンジカの生息密度が高く、植栽木や下層植生への食害が発生していることから、防護柵や幼齢木保護管の設置等の被害対策を行うとともに、自治体等と連携して、わな捕獲等を行います。

また、地域と一体となった捕獲技術等の普及を図るため、民有林関係者の方々を対象とした現地検討会の開催等に取り組みます。

【シカ捕獲技術現地検討会】

【くくり罠で捕獲したニホンジカ】



津川山国有林 (津山市)

# 5 林産物の供給に関する事項

## (1) 木材の安定的な取引関係の確立に関する事項

列状間伐、路網、高性能林業機械を組み合わせた低コストで効率的な間伐を推進するとともに、自然条件・社会的条件を考慮して主伐を実施し、木材供給に取り組みます。

また、伐採・搬出した木材を製材工場等の需要者に直接販売する「国有林材の安定供給システム販売」を推進することにより、地域における計画的かつ安定的な木材供給体制の構築に努めます。

本計画区の伐採計画量は、人工林資源が多い津山市、鏡野町の国有林野において、全体の約7割を占めています。

【ハーベスタによる造材作業】



白水山国有林（美作市）

【フォワーダへの積載・土場までの運材作業】



津川山国有林（津山市）

【搬出した丸太を土場へ集積】



中津川山国有林（鏡野町）

【トラックへの積込作業】



木地山国有林（奈義町）

## (2) 木の文化を支える森づくり

歴史的木造建造物の修復に使用される用材を確保するため、ケヤキの大径木を育成・備蓄する場として、那岐山国有林（奈義町）の約1haを「文化財継承林」に設定しています。

また、歴史的木造建造物の屋根の修復に使用される<sup>ひわだ</sup>檜皮の採取等のため、黒木国有林（津山市）及び那岐山国有林（奈義町）のうち、80年生以上のヒノキ人工林、約9haを「<sup>ひわだ</sup>檜皮採取対象林」に設定しています。

【<sup>ひわだ</sup>檜皮採取対象林での採取作業】



那岐山国有林（奈義町）

【文化財継承林のケヤキ大径木】



那岐山国有林（奈義町）